

岡山市・岡山広域圏 連携中枢都市圏の形成に係る  
基礎調査結果について（概要）

平成28年2月5日

岡山市

## <基礎調査の内容>

連携中枢都市圏の形成に向け、提案取組項目の検討資料とするため、公共施設、医療、産業、交通についての立地状況・利用状況等の現状調査するとともに、今後のあり方に対する調査を行いました。

### ◆調査の内容

#### 1 現状の調査分析

公開されているデータや関係市町からの提供データにより、立地・利用状況を把握

#### 2 住民アンケート

公共施設・医療・交通について、日常の生活圏域や今後の地域づくりのために必要な取組を把握

#### 3 企業アンケート

圏域内に立地する事業者の経営環境や直面する課題、公的産業支援策として期待するもの等を把握

## <住民アンケート実施概要と配布・回収状況>

### □ 岡山都市圏住民アンケート概要

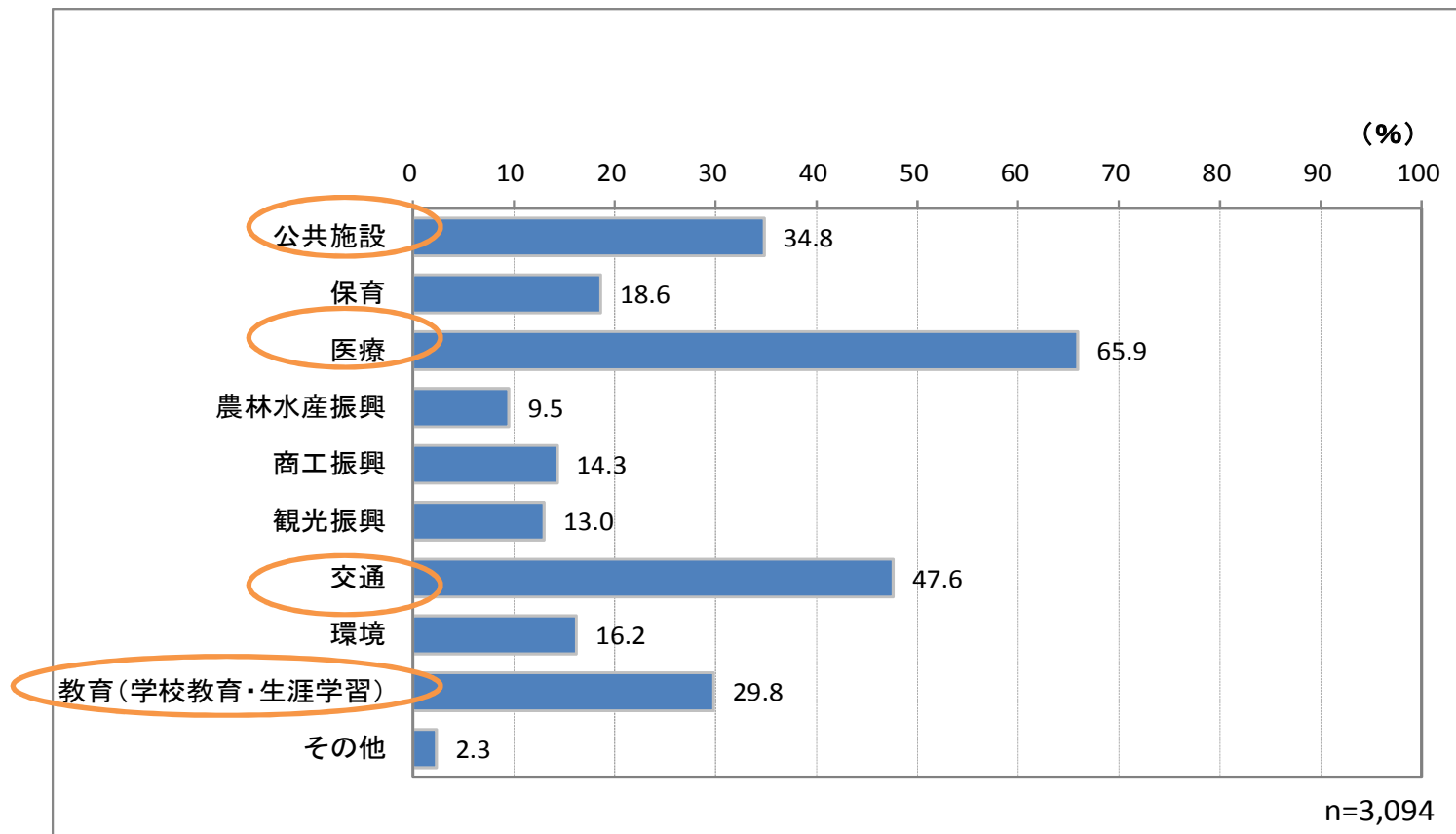
項目	内容
調査目的	①岡山都市圏内の住民の日常の生活圏域の把握 ②今後の地域づくりのために必要な取組の把握
調査対象	岡山都市圏内住民
データ数	○サンプル数 6,000票（有効発送数5,977票） ○有効回答数 3,238票（回収率54.2%）
調査時点	2015年10月21日～11月10日（本報告書掲載の有効回答数、回収率は11月30日までの回収分を反映）
標本抽出	岡山都市圏内の市町の20歳～70歳代の住民を無作為抽出（市町の人口規模に応じ、発送数を按分）
調査方法	自記入式アンケート調査票を郵送により配布・回収
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本事項                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別、年齢、居住地、家族構成、職業、運転免許の有無</li> </ul> </li> <li>● アンケート事項                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の生活圏域～日常の生活で利用する施設の場所・交通手段・所要時間、居住地の満足度</li> <li>・ 地域づくりに必要な取組～優先的に取り組むべき事項、市町村の連携についての意識、連携して取り組むべき事項</li> </ul> </li> </ul>

### □ アンケート回収状況

市町村	発送数(票)	回収数(票)	回収率(%)
岡山市	2,000	1,025	51.3
北区	-	413	-
中区	-	220	-
東区	-	164	-
南区	-	228	-
津山市	600	250	41.7
玉野市	400	219	54.8
総社市	400	232	58.0
備前市	400	199	49.8
瀬戸内市	400	212	53.0
赤磐市	400	226	56.5
真庭市	400	234	58.5
和気町	200	119	59.5
早島町	200	110	55.0
久米南町	200	136	68.0
美咲町	200	109	54.5
吉備中央町	200	125	62.5
不明	-	42	-
合計	6,000 (有効発送数: 5,977)	3,238	54.2 (有効発送数ベース)

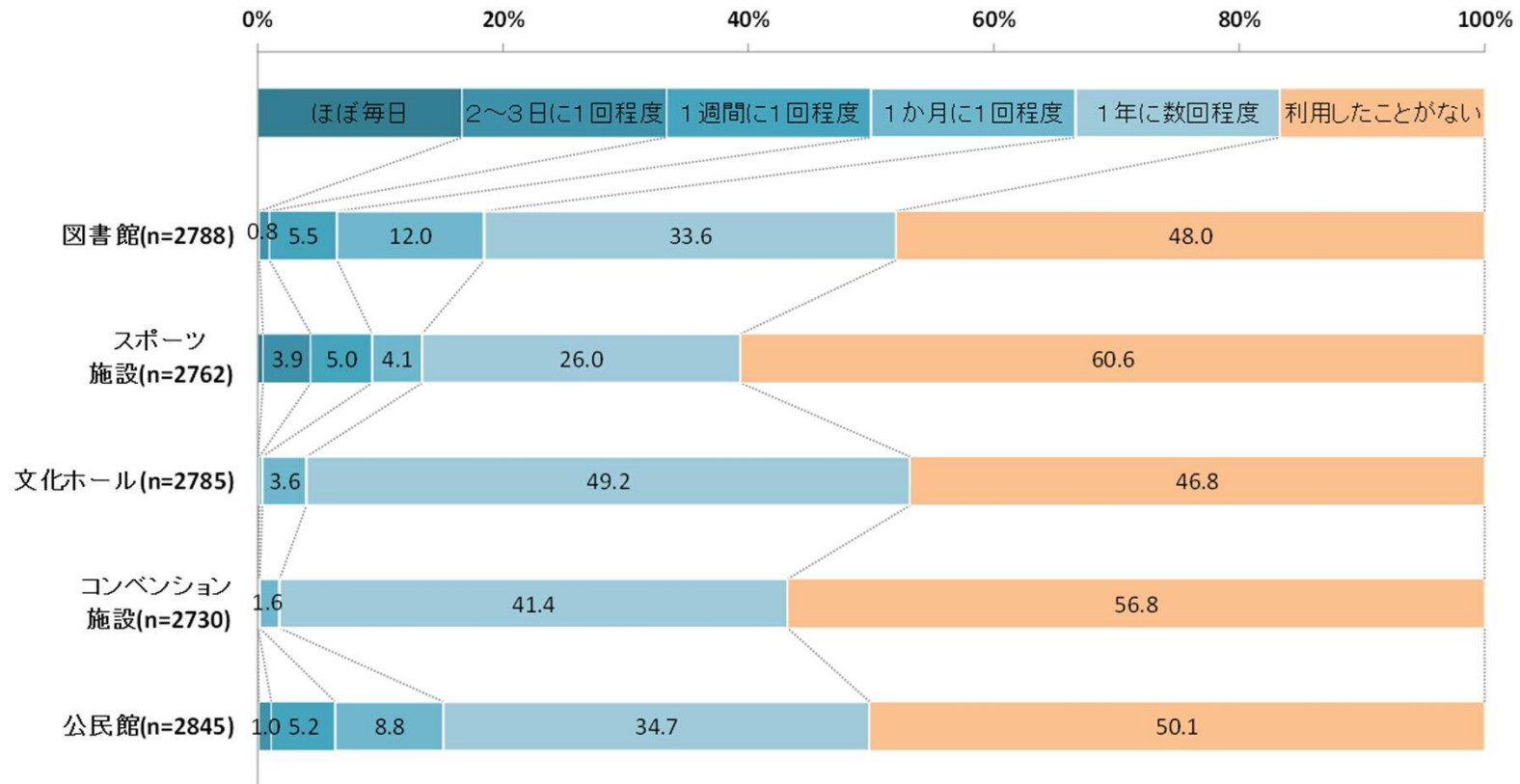
## <市町連携が求められる分野>

- 今後、市町連携が求められる分野として上位に挙げられたのが、「医療」（65.9%）、「交通」（47.6%）、「公共施設」（34.8%）であり、今回主な調査テーマとしているこの3分野への住民の関心度が高いことを確認した。
- 上記3分野以外には「教育（学校教育・生涯学習）」（29.8%）への関心が高かった。一方、最も低い値となったのは、「農林水産振興」で9.5%となっている。



## <公共施設の利用状況と利用頻度>

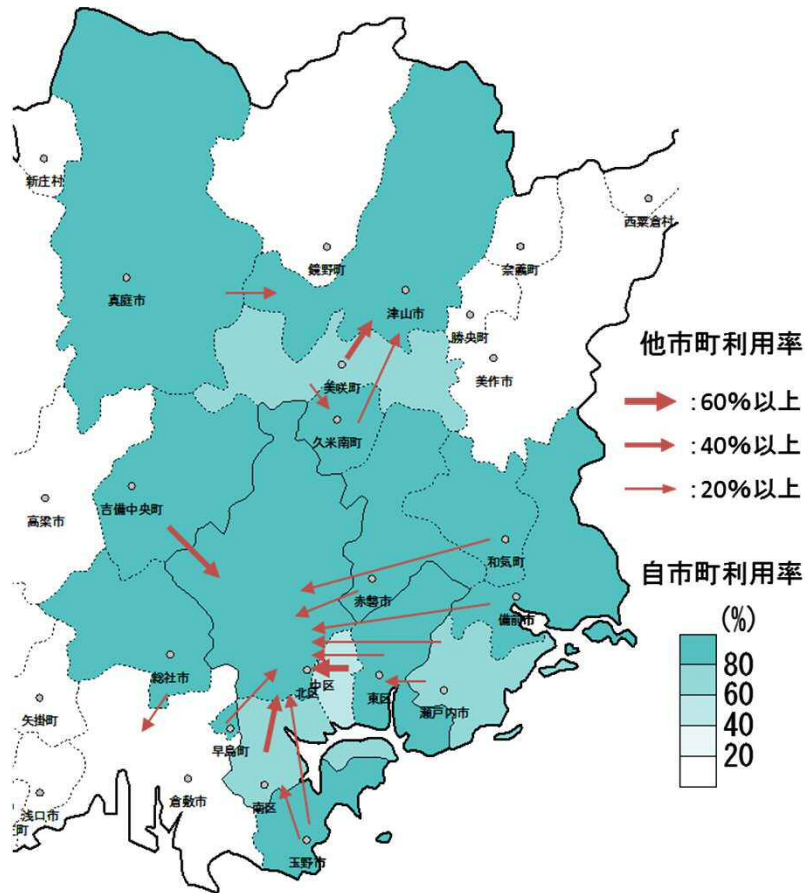
- 公共施設（図書館・スポーツ施設・文化ホール・コンベンション施設・公民館）の利用状況では、全施設を通じ「利用したことがない」が約半数となっている。
- 施設ごとでは、図書館は「1か月に1回程度」以上の利用頻度が18.4%と他施設に比べ利用頻度が高い施設となっている。次いで利用頻度が高いのが「公民館」（同15.1%）、「スポーツ施設」（13.4%）である。
- 文化ホール・コンベンション施設はともに「1か月に1回程度」以上の利用頻度は少なく、「1年に数回程度」の利用が多い。



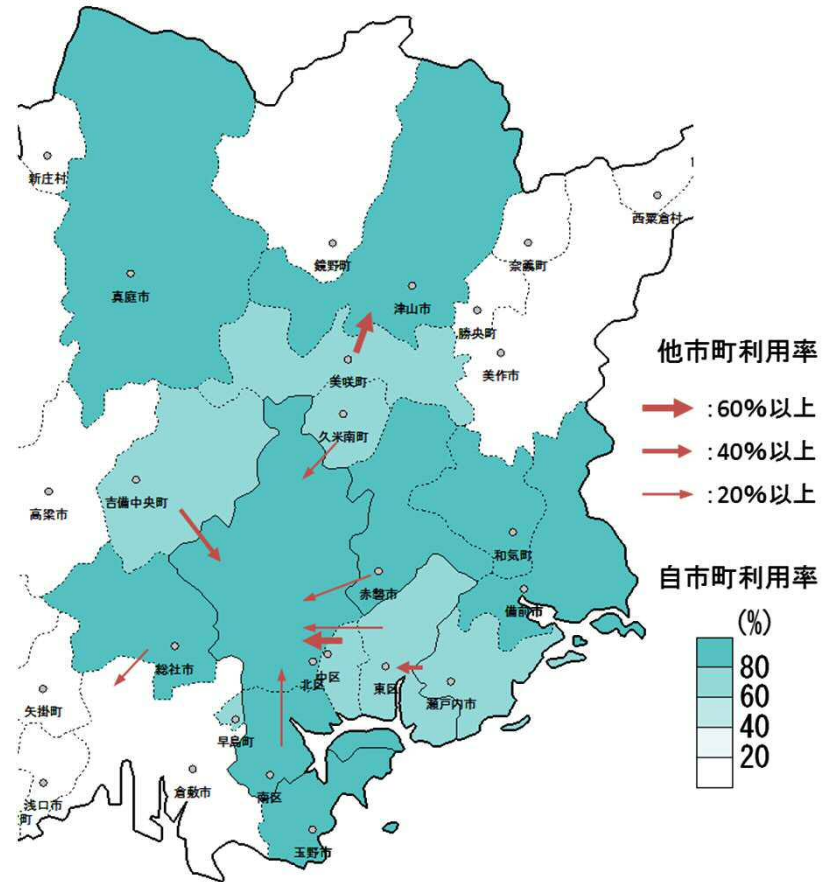
## <公共施設の広域的な利用状況①>

- 公共施設（図書館・スポーツ施設・文化ホール・コンベンション施設・公民館）の広域的な利用状況では、すべての施設について、岡山市と津山市の利用率が高い状況となっている。

【図書館】



【スポーツ施設】



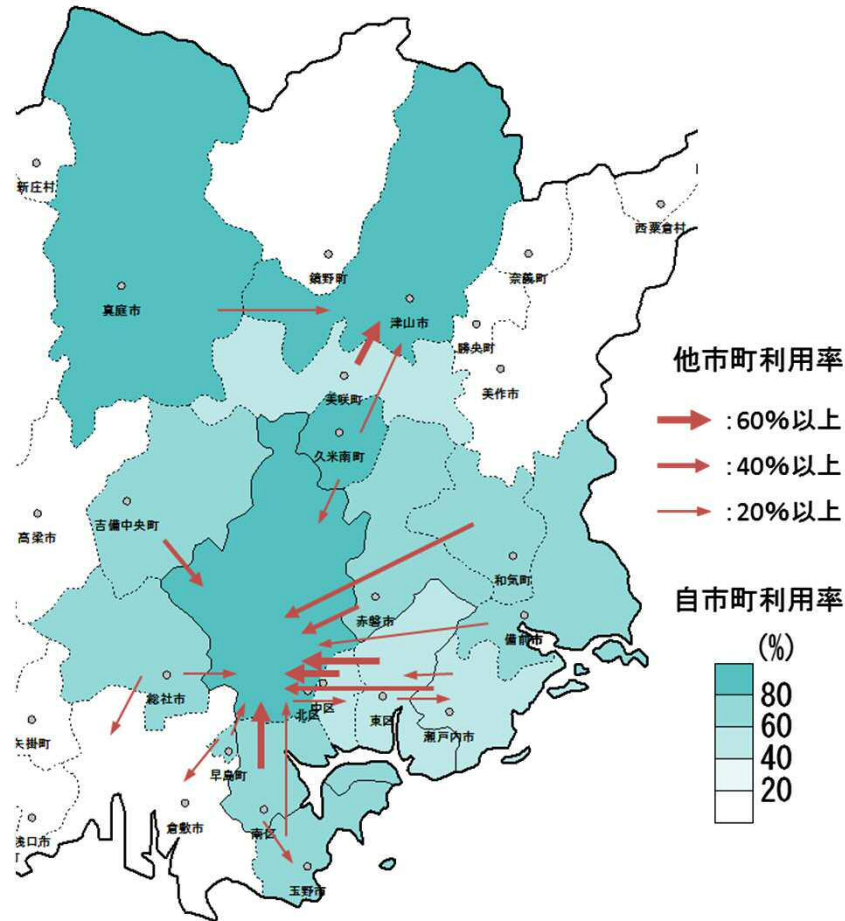
(注)本アンケート調査では「利用している」もしくは「利用したい」公共施設を調査しているため、利用場所・利用率ともに実際の利用に利用希望を加えた数値となっている。



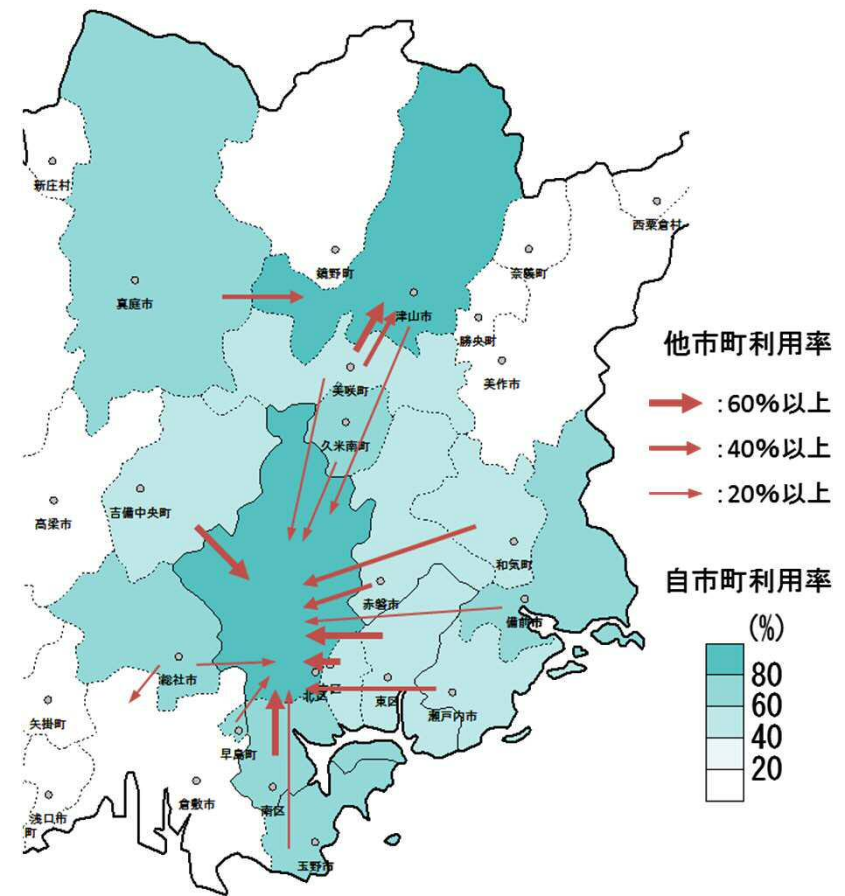
## <公共施設の広域的な利用状況②>

- 公共施設（図書館・スポーツ施設・文化ホール・コンベンション施設・公民館）の広域的な利用状況では、すべての施設について、岡山市と津山市の利用率が高い状況となっている。

【文化ホール】



【コンベンション施設】



(注)本アンケート調査では「利用している」もしくは「利用したい」公共施設を調査しているため、利用場所・利用率ともに実際の利用に利用希望を加えた数値となっている。

## ＜今後の公共施設＞

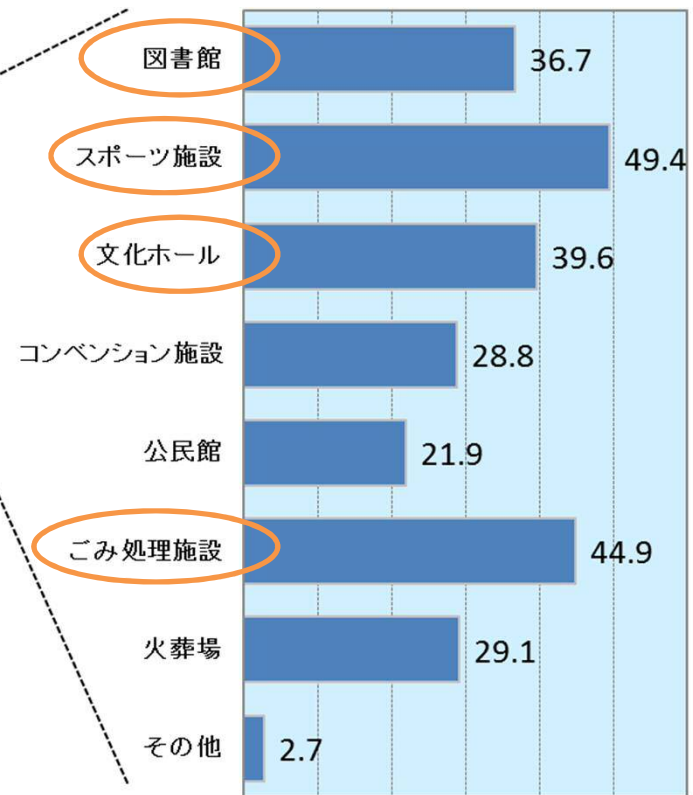
- 公共施設の今後の維持・管理方法として、都市圏住民が望む維持・管理方法は、「近隣市町と施設を共同で利用」が59.1%と最も高い比率となった。次いで「施設管理の民間委託や、譲渡による経費削減」が43.8%、「既存の施設の改修など、施設の長寿命化」が29.4%と続いている。
- 市町間での共同利用を進めるべき公共施設は、「スポーツ施設」が49.4%で最も高かった。次いで「ゴミ処理施設」44.9%、「文化ホール」39.6%、「図書館」36.7%と続いている。

### □ 公共施設の今後の維持・管理についての住民意識



n=2942 単位:%

### □ 市町間で広域利用をするべき公共施設



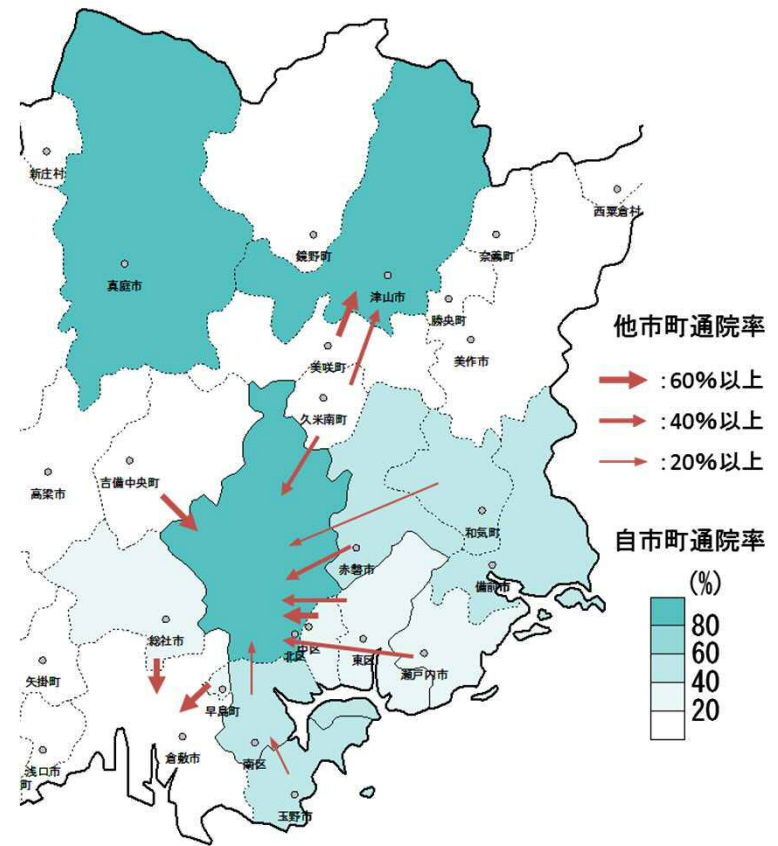
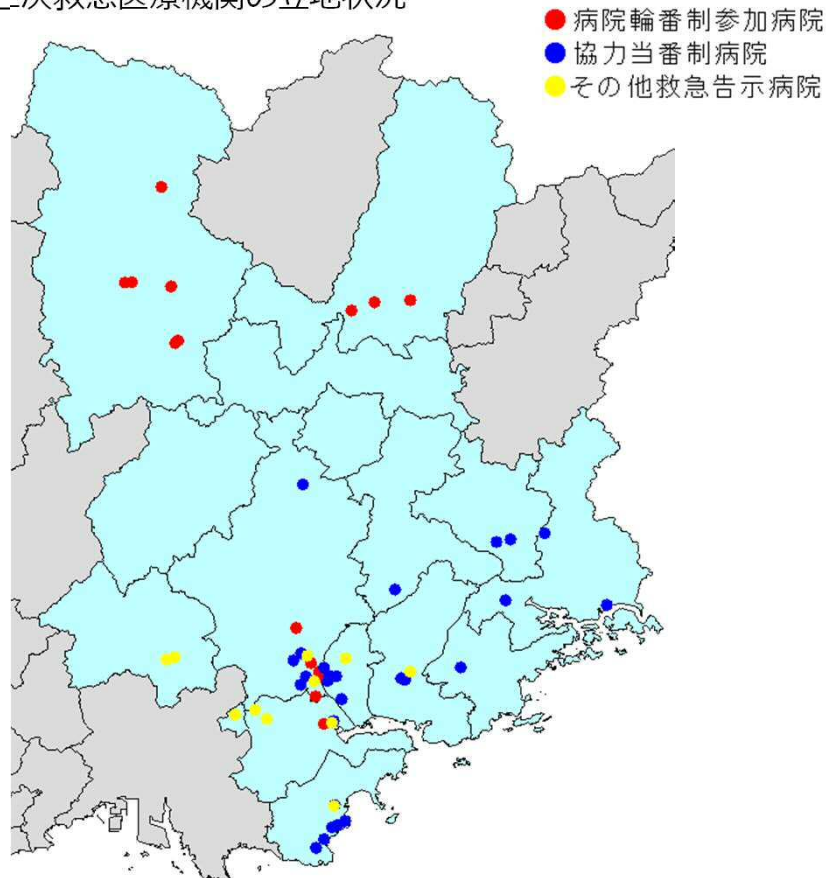
n=3088 単位:%



## ＜高度医療機関の広域利用状況＞

- 高度医療機関への通院については、圏域内の2次医療圏の中心である岡山市（特に北区）と津山市に通院先が集中している。同じく2次医療圏の中心である真庭市は自市町内での通院率が高い。
- 総社市・早島町については倉敷市を中心とする2次医療圏に属していることから、圏域外（主に倉敷市）への通院が多い。

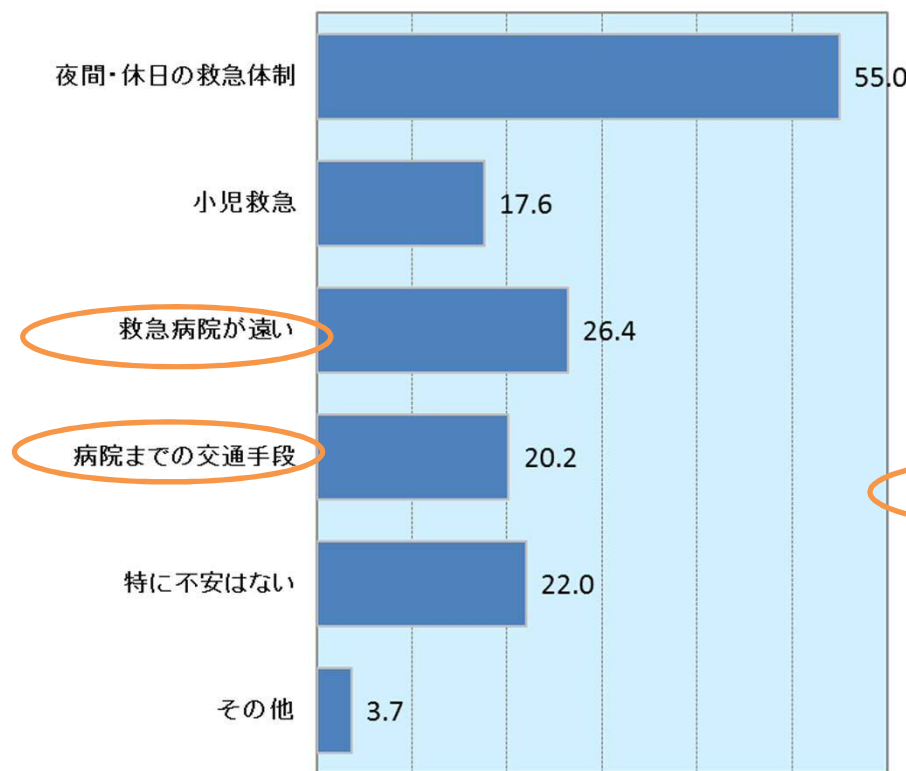
### □ 二次救急医療機関の立地状況



## ＜救急医療への不安と今後のあり方＞

- 岡山都市圏の住民が抱える救急医療に関する不安として、最も値が高かったのが「夜間・休日の救急体制」で55.0%であった。次いで「救急病院が遠い」26.4%、「特に不安はない」22.0%、「病院までの交通手段」20.2%、「小児救急」17.6%と続いている。
- 岡山都市圏域で充実すべき医療体制は、「最後まで住み慣れた地域で療養できる体制」が57.2%で最も高くなった。次いで「事故・急病に対応する体制」48.2%、「災害に対応する体制」30.4%と続いている。

□ 救急医療に関して不安なこと



n=3088

□ 今後充実すべき医療体制

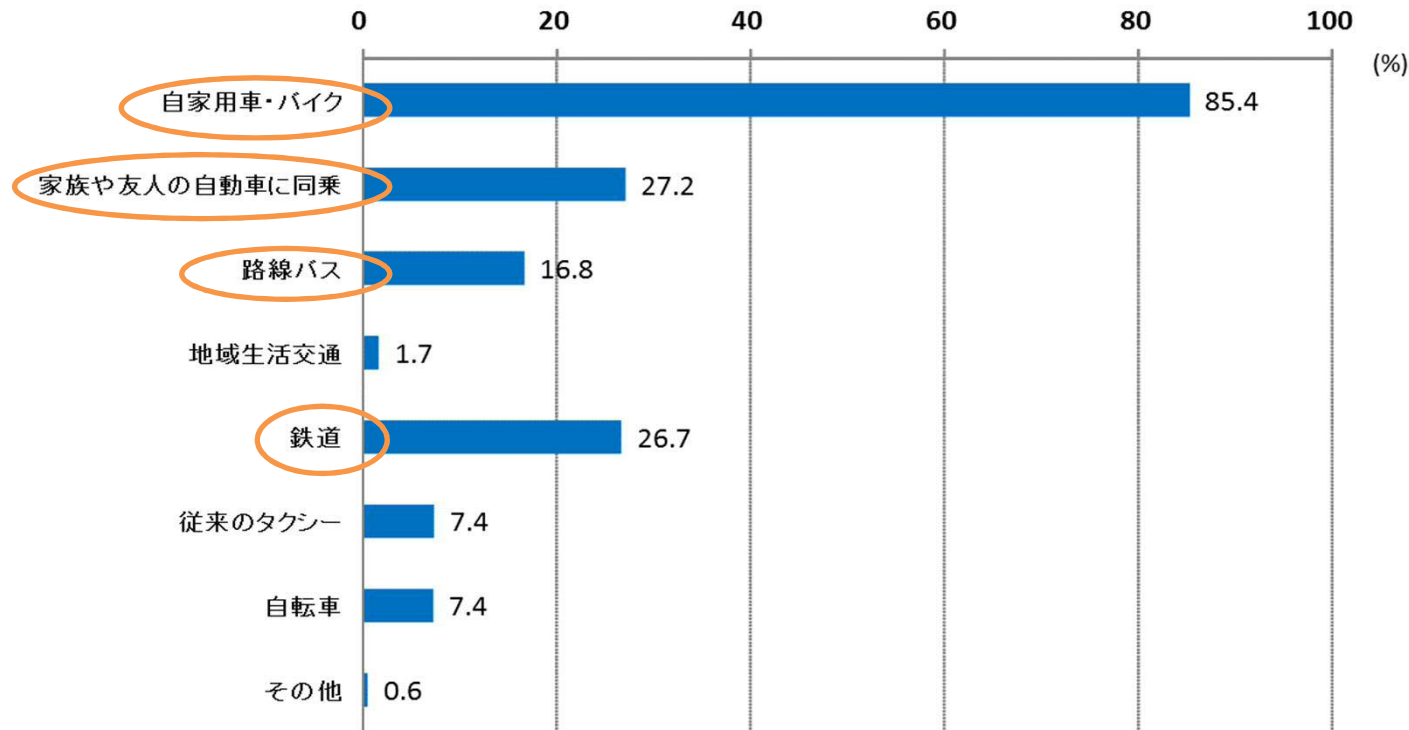


n=3081

## <近隣市町村への交通手段の利用状況>

- 移動手段としては、「自家用車・バイク」・「家族や友人の自動車に同乗」の、車利用が主なものとなっている。
- 「路線バス」「鉄道」も広く利用されている。

□ 近隣市町村へ移動する際の交通手段

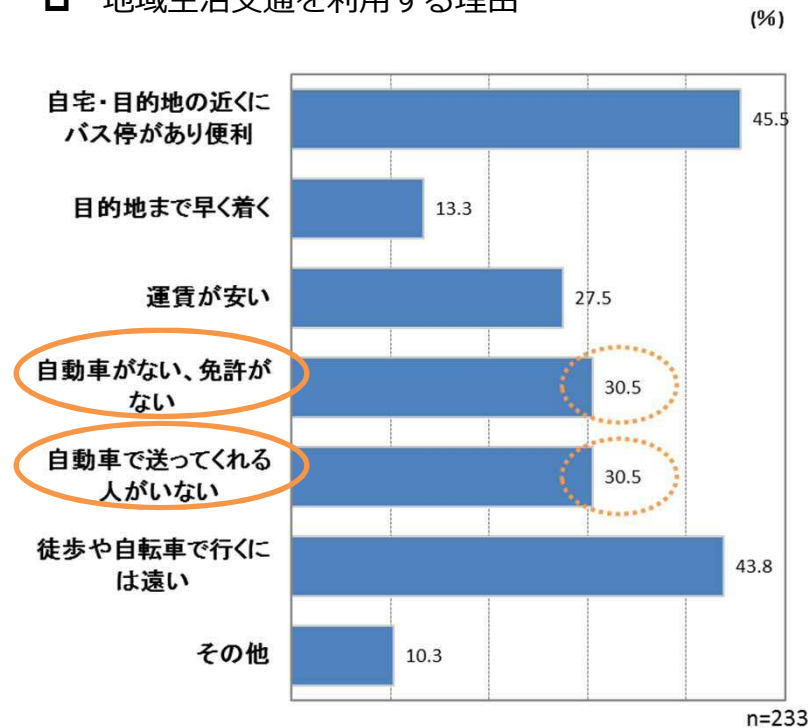


\*ここで「地域生活交通」とは、地域住民の交通の利便性向上を目的として、地方公共団体が何らかの形で運行に関与している交通機関で、デマンド型（利用者の要望に応じて柔軟な運行を行う交通形態）や路線型のバスやタクシーなどを指す。

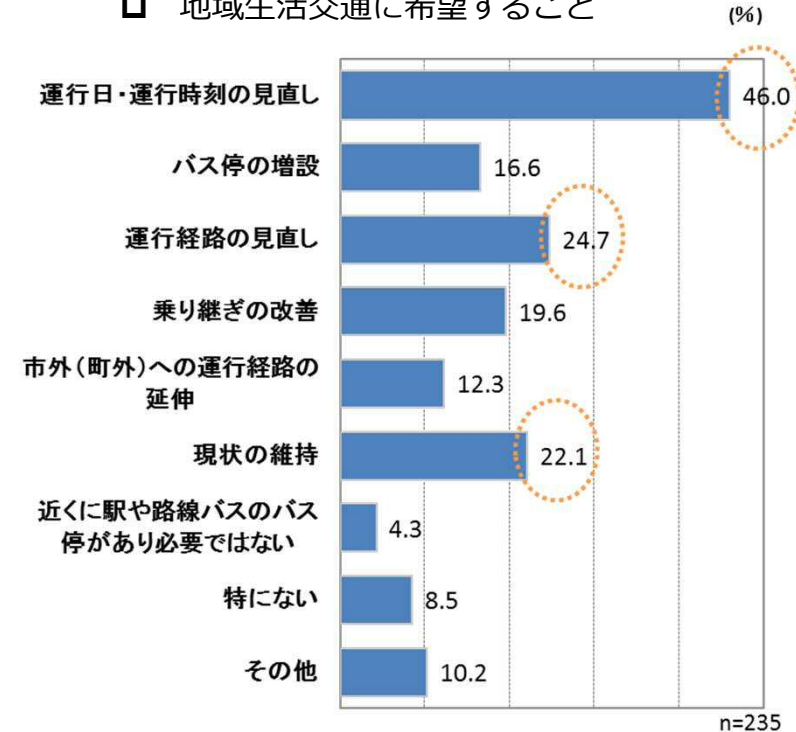
## ＜地域生活交通の利用と今後のあり方＞

- 域生活交通を利用する理由として最も比率が高かったのが「自宅・目的地の近くにバス停があり便利」45.5%であった。次いで「徒歩や自転車で行くには遠い」43.8%、「自動車がない、免許がない」及び「自動車で送ってくれる人がいない」が30.5%と続いている。
- 地域生活交通について希望することで最も割合が高かったのが「運行日・運行時刻の見直し」で、46.0%であった。次いで「運行経路の見直し」24.7%、「現状の維持」22.1%と続いており、最も割合が小さかったのは「近くに駅や路線バスのバス停があり必要ではない」で、4.3%であった。

□ 地域生活交通を利用する理由



□ 地域生活交通に希望すること



\*ここで「地域生活交通」とは、地域住民の交通の利便性向上を目的として、地方公共団体が何らかの形で運行に関与している交通機関で、デマンド型（利用者の要望に応じて柔軟な運行を行う交通形態）や路線型のバスやタクシーなどを指す。

## <企業アンケート実施概要と配布・回収状況>

### □ 岡山都市圏企業アンケート概要

項目	内容
調査目的	岡山都市圏に本社を置く企業について、①経営状況・経営上の課題、②公的産業振興策のあり方の2つを把握することを目的とする。
調査対象	圏域内に本社を置く従業員5名以上の企業2,060社(協同組合・団体等を除く)
データ数	サンプル数 1,000票(有効発送数997票) 有効回答数 502票(回収率50.4%)
調査時点	2015年11月5日～11月18日(本報告書掲載の有効回答数、回収率は11月30日までの回収分を反映)
標本抽出	調査対象となる企業から1,000社を無作為抽出
調査方法	自記入式アンケート調査票を郵送により配布・回収
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本事項                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会社概要(所在地、資本金、業種、従業員数)</li> </ul> </li> <li>● アンケート事項                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 経営状態に関すること                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業績、取引先(地域)、会社の強み、圏域のメリット／デメリット</li> <li>・ 人材確保の取組、人材(後継者等)の育成</li> </ul> </li> <li>② 新分野への進出に関すること                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新分野への取組状況</li> </ul> </li> <li>③ 公的産業振興策のあり方に関すること                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期待する公的産業振興策、具体的要望</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

### □ アンケート回収状況

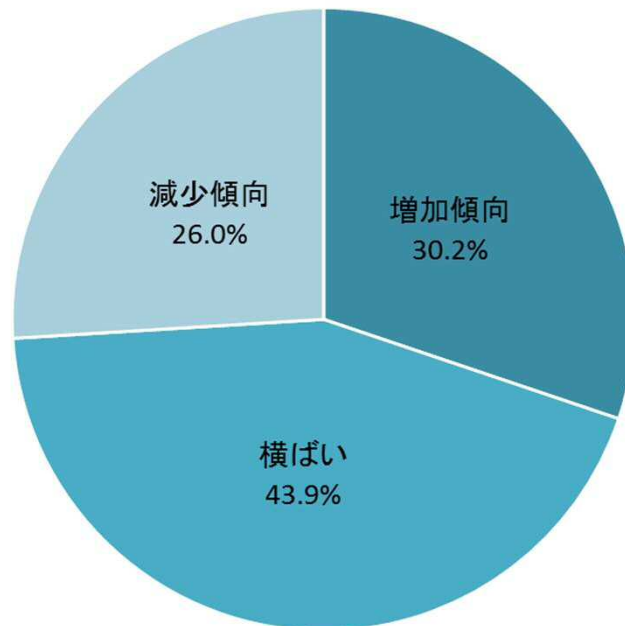
市町村	発送数(票)	回収数(票)	回収率(%)
岡山市	444	219	49.3
津山市	141	74	52.5
玉野市	83	34	41.0
総社市	57	25	43.9
備前市	75	44	58.7
瀬戸内市	42	21	50.0
赤磐市	32	18	56.3
真庭市	67	26	38.8
和気町	13	6	46.2
早島町	8	3	37.5
久米南町	4	3	75.0
美咲町	19	11	57.9
吉備中央町	15	8	53.3
不明	-	10	-
合計	1,000 (有効発送数: 997)	502	50.4 (有効発送数ベース)



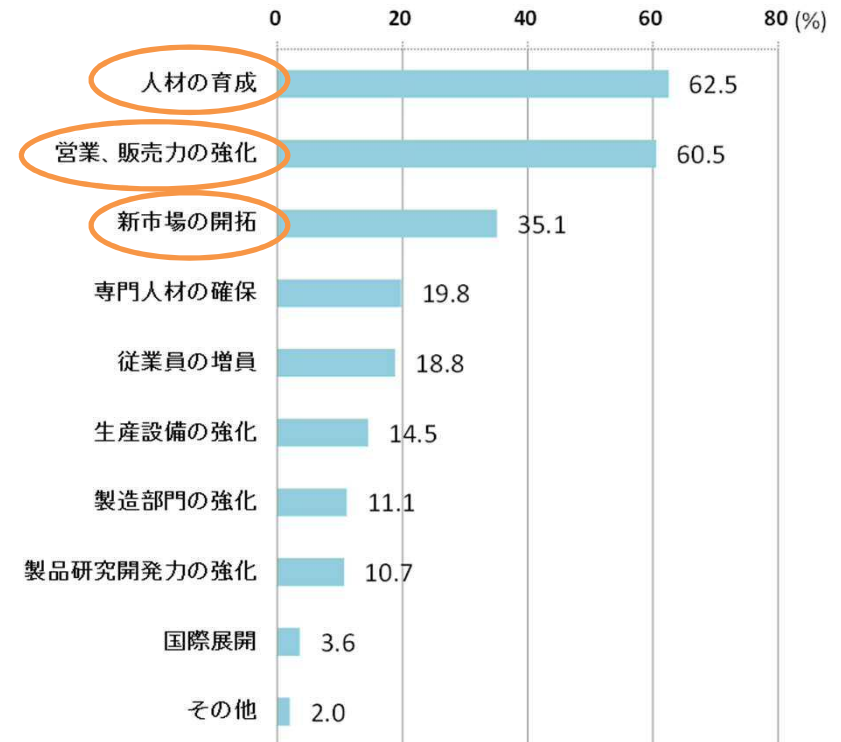
## <企業活動の状況>

- 最近5年の売上傾向は、「増加傾向」あるいは「横ばい」と回答した企業が約7割、「減少傾向」と回答した企業は約3割であった。
- 今後5年間の経営戦略における課題としては、「人材の育成」と「営業、販売力の強化」がともに約6割と最も多く、次いで「新市場の開拓」が続いた。
- 「専門人材の確保」や「従業員の増員」を課題とする企業もそれぞれ約2割あり、「人材の育成」も含めると、人材を経営戦略上の課題としている企業が多いことが分かる。人口減少のなかで、市場拡大に対応するための市場開拓と人材不足への対応が求められている。

□ 最近5年の売上傾向



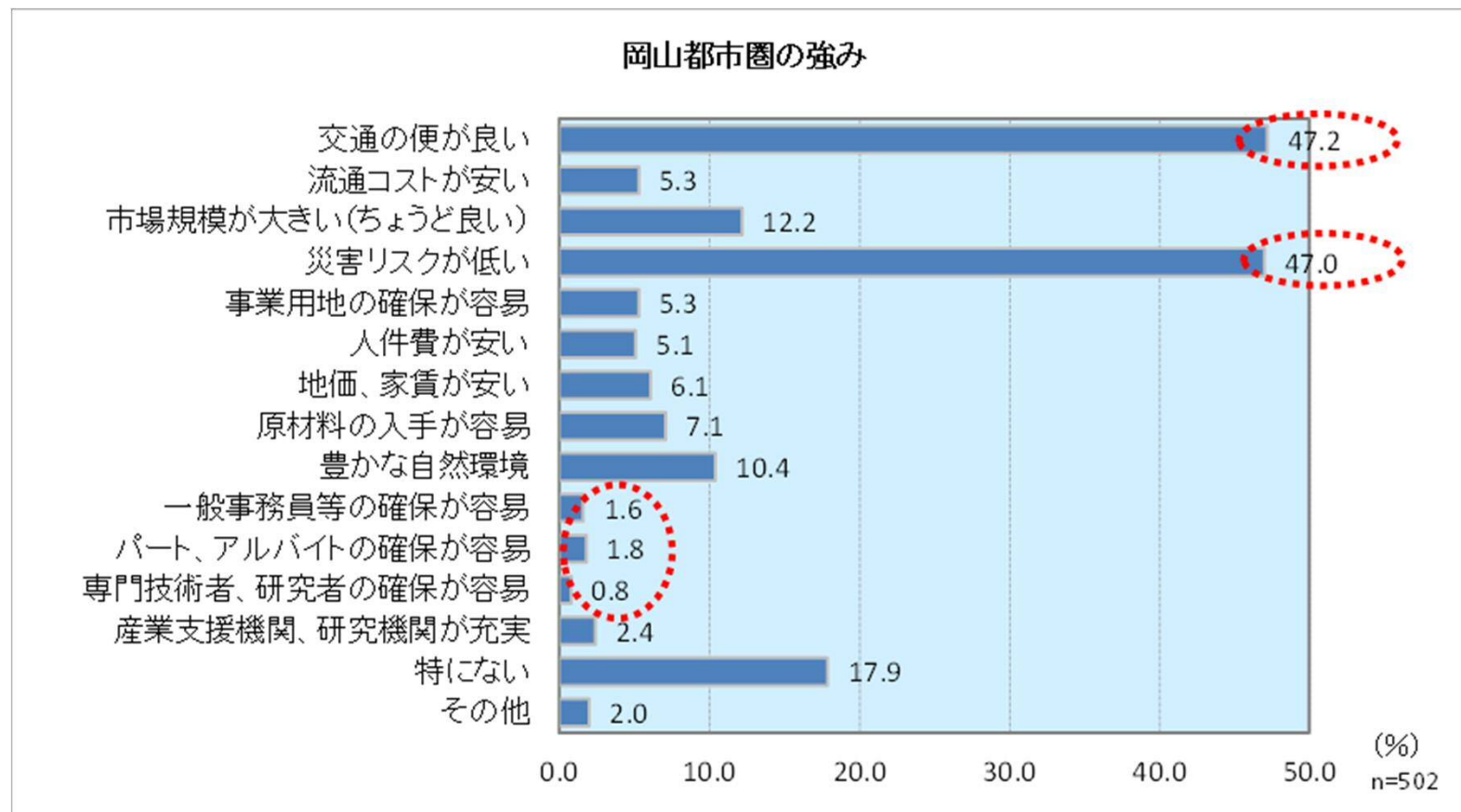
□ 経営戦略上の課題





## ＜企業活動における岡山都市圏域の強み＞

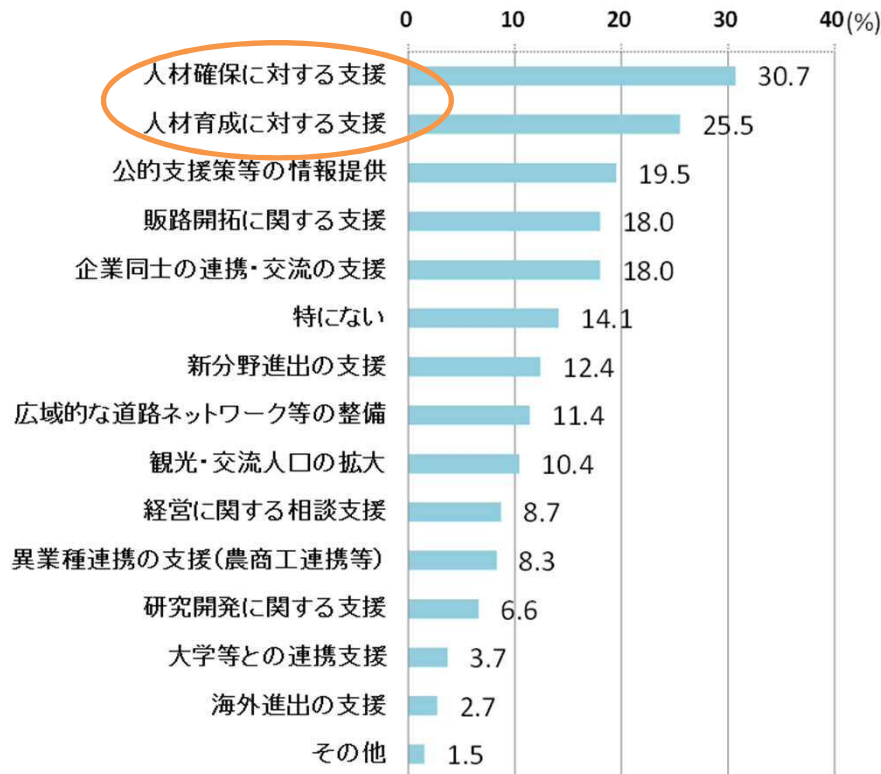
- 企業活動を行うにあたり、岡山都市圏の強みとして約5割の企業が「交通の便が良い」あるいは「災害リスクが低い」を強みと考えており、他の項目と比べて圧倒的に多い結果となった。高速道路や鉄道など交通インフラの整備により、関西エリア、九州エリアへのアクセスが容易になったことや、台風や地震などの自然災害が少なく安定した事業継続が可能であることなどが考えられる。
- 一方で、「一般事務員等の確保が容易」や「パート、アルバイトの確保が容易」、「専門技術者、研究者の確保が容易」といった人的な面については低い結果となった。



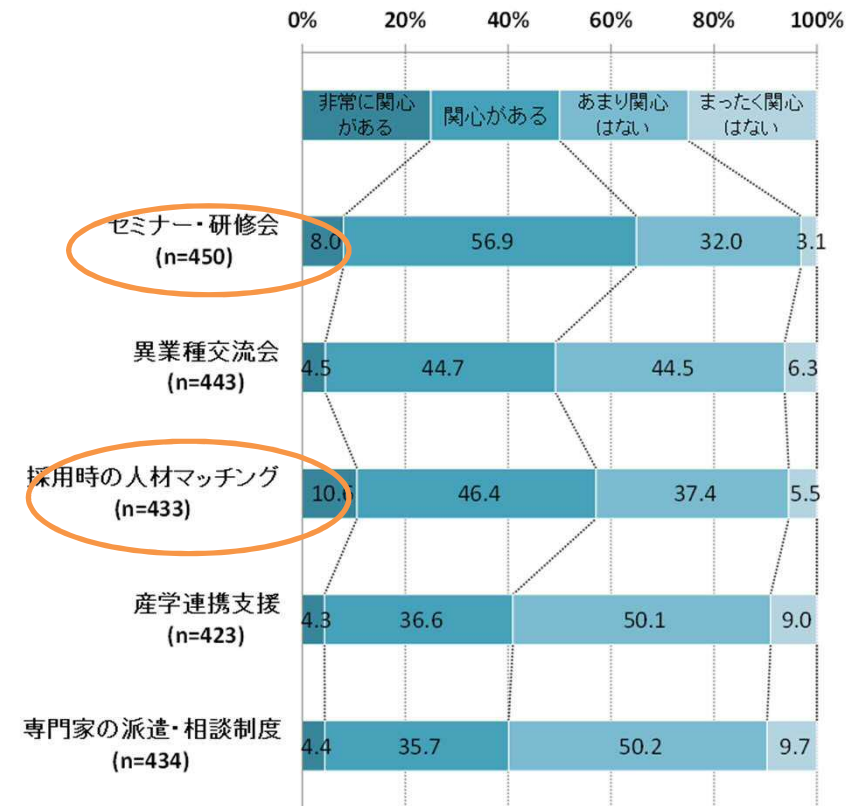
## <広域的な産業支援策>

- 公的産業振興策として期待するものは、「人材確保に対する支援」30.7%、「人材育成に対する支援」25.5%と人材に関する項目が上位を占めており、戦略上の課題と同様に人材確保・育成への期待が大きいことが分かる。また、「公的支援策等の情報提供」「販路開拓に関する支援」「企業同士の連携・交流の支援」も求められている。
- 産業振興策について、「非常に興味がある」と「興味がある」をあわせた関心が高いものは「セミナー、研修会」であった。次いで「採用時の人材マッチング」「異業種交流会」と続いており、人材分野への関心が高い。

### □ 公的産業振興策として重視するもの



### □ 公的産業振興策についての関心度



## <ヒアリング調査結果①>

- 地域経済の問題点として、各企業が強調したのは、人材確保面で競争が高まっているという点である。特に技術者・グローバル人材については大企業との競争に負けているのが現状とのことである。
- また、生活環境や産学連携についても課題が指摘されている。

### □ 地域経済の問題点

<p>人材面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材確保面での競争</li> <li>● <u>優秀な人材は大手企業との取り合いに負けてしまう傾向にある</u></li> <li>● <u>ワーカーも技術者も確保しにくく、タイムリーに人員が確保できていない状況となっている</u>。新卒をあまり採用できていない理由としては、<u>給与面等で学生が大手志向になっており、県外へ流出してしまっていることが挙げられる</u></li> <li>● <u>機械系に特化した人材は大手企業がほぼ青田買いしていく傾向にあり、その後に数少ない優秀な人材を採用するという方法となっている</u></li> <li>● <u>圏域北部では人が集まらず、ハローワークに登録しても無駄である</u>。大半が岡山市へ流れており、その次が関西エリアである</li> <li>● <u>グローバル人材が不足している</u>。本当のグローバル人材とは、英語を話せるとか英語で交渉できるかではなく、日本に帰ってくることなくずっと海外で生活しても良いという人間であり、現在当社にもいない</li> <li>● <u>人が集まらない理由としては、まず魅力的な企業がないこと。そしてアクセスが悪いことである</u>（特に圏域北部）</li> </ul>
<p>生活環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>アパートの空き物件が少なすぎる</u>。従業員、特に採用したばかりの若者のなかには自宅から通勤できない人がいるが、近くでアパートを探すが見つからず、近隣市町でアパートを借りて通勤している。外から人を呼ぼうとしても住むところがないと集まらず、こうした状況を改善していくことが必要である</li> </ul>
<p>産学連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>産学連携を県の産業支援センター等と積極的に行っているが、自分たちがやりたい分野と100%一致したことをやってくれる所はあまりない</u></li> <li>● <u>県内の大学と連携したいが、岡山県内にはそもそも大学が少なく、場所も遠いので実施しにくい</u></li> </ul>

## <ヒアリング調査結果②>

- 地域経済の問題点として、人材の不足と共に多く挙げられたのが、観光面である。地域経済にとって観光消費が重要という認識は浸透しており、観光インフラの整備や岡山らしい魅力づくりとその発信という点が課題として挙げられている。

□ 地域経済の問題点（つづき）

観光

- **インバウンド向け観光インフラが未整備**
  - ・ インバウンド観光に力を入れていくのがいいのではないかと。あまり知られていないが和気町にはリンゴ農園があり日本一とも言われている藤棚もある。そうしたところを回り、そこで農業体験もできるなど周遊型観光をすることもおもしろいと思う
  - ・ 岡山市内の路面電車から降車する際、外国人が苦労している場面を多々目撃することから、案内板の多言語化、設置数の増加を行うべき
- **岡山らしい魅力づくりと発信が不足**
  - ・ 大きな問題点としては、岡山県は観光客にとって四国への入り口となっているだけのことが多いことである。新幹線が通るようになってから岡山県はただの通り道になっているケースが多く、観光客を岡山県内に留める又は呼び込む魅力が少なくなっているように感じる
  - ・ 岡山県の主要な観光地としては岡山城や後樂園等が挙げられるが、岡山城はコンクリート壁を使用しており景観が崩れているように感じる。また、後樂園は作業員が作業服を着て作業していることに違和感を覚える。石川県の兼六園では作業員は法被を着て作業を行うなど、徹底して日本文化を発信するよう心掛けている。後樂園でもそれを見習うべき
  - ・ 鶴山公園をもっと主張するべきだと思う。お金をかけて天守閣を再現するとか思い切った取り組みが必要
  - ・ 湯郷温泉、湯原温泉など良い温泉はたくさんある。蒜山は西の軽井沢と呼ばれており、高原リゾートとして高質である。さらには、日本海側の観光地にも通じている。そういった埋もれている観光資源をもっと外へ発信していくべき
  - ・ 観光資源に関しては岡山市の岡山城や後樂園、真庭市の蒜山、総社市内に多数ある寺、県内各地にあるB級グルメ等地域によって様々なものが存在する。また、蒜山から鳥取の大山を経由して、日本海側に抜ける観光ルートもある。地域間でお互いの観光資源の再認識を促し、それをどう発信していくか広域圏全体で考えることが必要になる

## <ヒアリング調査結果③>

- 今後望ましい公的産業支援としては、人材面については外国人・U I J ターンについての支援、「岡山市シティプロモーション」などによる企業連携の場をすることによる商品開発・販路開拓支援、インフラ整備などが挙げられている。

□ 今後望ましい公的産業支援

<p>人材面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外国人研修生の宿泊先が見つからなくて困っている。日本人が経営するアパートやマンションは治安という面で外国人を入居させたがらないので、宿泊先の紹介等の援助を行ってほしい</li> <li>• 他県から岡山に帰ってきたい人や、岡山に住んでみたい人にインターンとして来てもらいたいが、知名度の低い企業では、来て、働いてみないと、その良さはわからない。特に若い人には経験してもらわなければわからないことがあり、多くの若者に来てほしいので、行政の支援を期待している</li> <li>• 新卒をあまり採用できていないので、ワーカー・技術者共に増員したい当社としては、岡山県内での理科系の大学・専門学校を増加を望む</li> </ul>
<p>経営支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企業が苦しい時の支援制度は、どのような企業でも非常に心強い存在となるので、緊急時の支援策を考え、いざというときはそれを実施してほしい</li> </ul>
<p>商品開発 販路開拓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>岡山市が開催している「岡山市シティプロモーション」で他企業との連携が実現し消費者向け商品が完成した。そういった企業間での連携が生まれる場として、これからも展示会を開催してほしい</u></li> <li>• B to B（企業間の取引）から B to C（最終消費への販売）向けの商品・技術開発にも力を入れていきたいと考えており、商品開発や販路開拓について行政に後押ししてほしいと思っている</li> </ul>
<p>インフラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>岡山市から津山市間は一般道路しかなく、この区間の道路整備、鉄道整備をしっかりと行ってほしい</u></li> <li>• 岡山県全体でみると、観光・インフラ・企業誘致等の面で県が投資する場所は倉敷市や真庭市といった西部地域が多く、東部地域に関してはほとんど投資がされない</li> <li>• インフラの維持・更新には多額の資金が必要になるが、資金がないから維持・更新をしないというのではなく、一つの自治体で難しいのなら他の自治体も一緒になって統廃合しながら考えていくという方向に向いていかないといけない</li> </ul>